

## 1. 最高目標

校訓「立志・勉勵・自主・友愛」に示された自立、独立の人間形成を図るため、本校の教育方針及び学校教育の重点に基づく教育活動の推進を通して「豊かな学校」を構築し、「自立する18歳」を育成することを最高目標とする。

最高目標の達成を図るため、以下の3点を指導の柱とする。一人ひとりの生徒の能力を開発するために、分掌や教科等の区分に関わらない相互評価や教科研究等の真摯な自己研鑽による指導力の向上、また、一歩踏み込んで重なり合う相互の連携による組織的教育力の向上を図ることとする。

### ○ 生徒に教養の獲得を促す指導

科学・文化の担い手、また、良識ある社会の担い手として必要な基本的教養を培う場であるという認識に基づいて、人文・自然・社会全般にわたる教養教育を進める。論理的、批判的、分析的、複眼的な思考を育てる言語活動を通して、思慮に富み、正当な批判力や判断力、行動力を有する人材を育成する。そのために、各教科・科目や総合的な探究の時間に関する研究と実践、改善に取り組む。

### ○ 自己実現を図る進路目標の設定と達成に向けた取組を支援する指導

人間としての在り方生き方を考え、社会においてどのような形で他者との関係性を構築するかということ的前提とした自己実現を促す。進路目標の設定と具体的な進路選択に向け、生徒集団への計画的な啓発や生徒個々の取組への適切な支援と評価をおこなう。また、生徒が自身の目標を実現するために必要な能力や学力を身につけさせるための指導の研究と実践、改善に取り組む。

### ○ 幅広い経験に基づく人間形成を図る指導

主体性や社会性、協調性、健康管理を含めた自己管理能力、自他の存在と価値を尊重する人権意識、他者とともに生きるための道徳性を養うため、各教科・科目、総合的な探究の時間、特別活動のほか、委員会活動、自主的課外活動、部活動など、学校生活全般においてさまざまな経験を重ねることのできる機会を提供する。また、生徒が意欲と関心をもってそのような機会を活かし、自ら人間形成を図っていくことを支援する。そのための指導と評価に関する研究と実践、改善に取り組む。

## 2. 学校経営方針

京都市立高等学校 21 世紀構想のパイロット校に託された期待に応えるべく、これまでの学校改革や教育活動の歩みの中での模索と実践を通して得た経験と認識に基づいて、次の5点を学校経営の柱とする。目標を設定し、情報を共有し、自己点検を進め、教職員個々の指導力と学校としての組織的教育力の向上を図ることによって、最高目標の達成をめざす。

### (1) 「目標の設定と情報の共有」による協同的取組に対する評価と改善

授業をはじめ、総合的な探究の時間や特別活動等、新しい教育課程に基づく教育活動の目標を、グランドデザインに基づいて各取組の責任者や担当者を明確にしながらか適切に設定する。その上で、目標の実現に向けた協同を進め、情報の共有や成果と課題の整理・評価を行うことによって、その改善を図る。

### (2) 「教職員の一層の連携」による効果的かつ効率的な運営

学校は教職員の複合体である。一人ひとりが担う役割と果たす責任を自他ともに認識した上で、個々の教職員が分掌や教科等の区分に関わらず、効果的な教育活動の実現に向けて建設的・意欲的に関わり合うことを通じて、連携強化と相互支援を促進する。

### (3) 「二兎を追う」教育活動の実践による深い学びの実現に向けた指導力の向上

生徒が日々の学習と探究活動とを相互に関連づけながら実践することを通して、未知の事象に魅了され、知的に刺激を受け、探究しようとする態度とそのために必要な能力と学力を身につけることができるよう、各教科・科目、総合的な探究の時間、特別活動等に関する指導力の向上を図る。

### (4) 「学校経営への参画の促進」による能力の向上

一人ひとりが学校経営を担う人材である。新たな構想や学科改編の検討から分掌会議や教科会議等での議論に至るまで、学校経営への参画の機会が多岐にわたる。それぞれの目的や場面に応じて個々の教職員が資質・能力を発揮し、主体的に選択と判断を行い、評価を受けることを通じて、教職員の経営能力の向上をめざす。

### (5) 「成果の共有・引継」「分担の適性化」を通じた効果的な教育活動の実現

日常的な情報交換や交流、ICT 機器活用による資料共有・引継を促進し、蓄積された各種教材や実践事例、活動成果を有効に活用すること、また、経験や能力等に応じた役割分担や協同体制構築によって取組を推進することを通して業務の適正化を進め、効果的な教育活動を図る。